

令和元年度長門市社会福祉協議会事業報告書

長門市地域福祉計画と一体的に策定した第3次地域福祉活動計画の中間年次にあたる令和元年度は、前期計画から引き継がれた基本理念である『みんなが主役、誰もが住みつけてみたいまちづくり』の実現に向け、役員・事務局・事業所・施設が一体となり、地域住民や関係団体との協働のもと、地域の特色を活かしながら地域福祉を推進する中核的な団体として、福祉のまちづくりを目指し諸事業を実施しました。新規事業としては市より新たに西地域包括支援センターを受託し、在宅高齢者に対する各種総合相談や認知症相談会等、包括的な支援を行いました。また、引き続き「認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」の実現を図るため、地域密着型サービスとして市内で唯一の小規模多機能型居宅介護事業所「ひだまり長門」とグループホーム「やすらぎの里」の経営のほか、社協らしく多種多様な在宅福祉事業の提供体制の構築によって、支援が必要な方に対するきめ細やかなサービス提供に努めました。

次に、社協本来の使命である住民主体による地域福祉推進の施策として、自治会による見守りや助け合いの活動を奨励する目的から、自治会福祉部設置に係る支援事業を継続実施し、地区社協からの間接的支援も含め市内174自治会（小地域も含む）で話し合いや活動が実施されました。また、平成26年度より県内のトップを切って取り組んでいる「生活困窮者自立支援事業」を引き続き受託し、これまで見過ごされてきた大人の発達障害やその他、様々な要因によって生活困窮者となった方、またその予備軍であるニートやひきこもりの方等について、社協の持っている様々なネットワークを活用して、職員自らが地域に出向くアウトリーチを含めた寄り添い型の支援体制を目指し活動しました。次に介護保険事業全般では、介護報酬の減額改定により、昨年度大幅な減収となっていた3か所の通所介護事業で経営改善し、収益も持ち直しましたが、「ひだまり長門」は利用者の減少、「やすらぎの里」は泊まりの出来る職員を確保するための人件費の高騰が主要因となって多額の赤字を計上しました。なお、これに障害部門を加えた在宅福祉事業全体では法人運営部門への繰り出し分を除き8,659千円の黒字となりました。

次に包括的な障害者支援を目指している「地域活動支援センター『たけのこ村』」は、従来の竹をテーマとした軽作業等に加え、隣接地の土地所有者の協力を得て、無農薬の有機野菜の栽培や販売にも取り組み、やりがいを感じる事の出来るプログラムにより、これまで社会参加が困難であった方々の社会復帰に成果をあげています。なお、組織全体では平成30年度に理事により構成した「生活支援部会」の答申にもとづいて機構改革を行った「生活支援チーム」による支援も機能し始めており、次年度へ向けて課題解決しながら機能強化を図っている最中です。本事業報告書では、本会のみならず全国の社会福祉協議会が目指している「誰もが住み慣れた地域で、こころ豊かに安心して暮らせるまちづくり」を目指し実施した事業や活動について、本会の運営の基幹となる★法人運営部門、地区社協・自治会福祉部活動を基盤とする★地域福祉活動部門、介護保険法や障害者総合支援法に関連する公的制度として実施する★在宅福祉サービス部門、共助の活動として市民ボランティアの参加による★住民参加型福祉サービス部門、福祉専門職による各種相談支援も含めた★福祉サービス利用支援部門、加えて本会の特色となっている児童養護施設「依山湯の家」の経営を含めた★児童福祉部門についてそれぞれ分類し、事業の概要を報告させていただきます。

注)以下、事業別に表記している千円単位の数字につきましては、該当する項目の決算報告書の実数を四捨五入しておりますので、差額等の数値が一致しない場合があります。

★法人運営部門 【決算報告書10ページ：法人運営事業】

※理事会（定数：理事13・監事2）

開催年月日	出席者数(人) ※監事含む	主要議題及び協議、報告事項
令和元年6月10日	11	平成30年度事業報告について、平成30年度会計決算について、令和元年度第1回評議員会の開催について
令和元年6月27日	14	正・副会長、常務理事及び湯の家担当理事の選任について、長門市社会福祉協議会顧問の選任について
令和元年10月23日	12	依山湯の家施設長の解任及び選任について、職員就業規則の一部改正について、令和元年度上半期在宅福祉事業収支状況（概算）について、会長及び常務理事、湯の家担当理事の職務執行状況について
令和2年1月27日	15	令和元年度第1回評議員選任解任委員会の開催について、令和元年度第2回評議員会の開催について、
令和2年3月31日	15（書面決議）	令和元年度長門市社会福祉協議会補正予算の承認について、令和2年度長門市社会福祉協議会事業計画の承認について、令和2年度長門市社会福祉協議会収支予算の承認について

平成29年6月から、社会福祉法の抜本改正に伴う選任手続きを経た理事13名、監事2名の役員体制となっています。第2回理事会では、定時評議員会の開催に伴い任期満了となった会長以下、副会長（3名）、常務、湯の家担当理事を互選し、藤野会長以下、中澤副会長、沓野副会長、上田副会長、檜垣常務（事務局長兼任）、川崎湯の家担当理事が其々留任となりました。第3回理事会においては依山湯の家施設長の不祥事（飲酒運転）による解任について全会一致で承認されました。第5回理事会については、コロナウイルス感染拡大防止のため書面決議による審議を行い、全会一致の賛同を得て全議案とも原案どおり承認されました。

※評議員会（定数：評議員27・監事2）

開催年月日	出席者数(人) ※監事含む	主要議題及び協議、報告事項
令和元年6月27日	22	平成30年度事業報告について、平成30年度会計決算について、令和元年度第1回評議員会の開催について、理事・監事の選任について
令和2年3月31日	27（書面決議）	令和元年度長門市社会福祉協議会補正予算の承認について、令和2年度長門市社会福祉協議会事業計画の承認について、令和2年度長門市社会福祉協議会収支予算の承認について

事業及び会計決算報告（改正社会福祉法による定時評議員会）及び予算編成時にそれぞれ開催し、提案どおりご承認をいただきました。

※評議員選任・解任委員会（定数：5）

開催年月日	出席者数(人)	主要議題及び協議、報告事項
令和2年3月2日	4	評議員欠員に伴う補充選任（5名）について

※長門市社会福祉法人地域公益活動推進協議会（8法人13施設）

開催年月日	出席委員数(人)	内 容 説 明
令和元年5月23日	13	平成30年度企画運営会議活動報告、平成30年度事業報告について、平成30年度決算について
令和2年3月	13（書面決議）	令和元年度企画運営会議活動経過報告と事業実施状況について、令和2年度事業計画について、令和2年度予算について

平成28年11月に市内の社会福祉法人、施設が参画し、公的制度の隙間を埋める地域公益活動の実施を目指して「長門市社会福祉法人地域公益活動推進協議会」が正式に発足し、平成30年度から民生児童委員協議会にもご協力を頂きながら、「粗大ごみ出し支援サービス」及び「外出（買い物）弱者支援移送サービス」を試行的に実施しています。なお、山口県社会福祉協議会が山口県社会福祉法人経営者協議会を部会的位置づけとして事務局を担っていることから、本会も同様な考えで事務局を担う事としています。好評を頂いている「粗大ごみ出し支援サービス」については多くの方から好評を頂いており、支援実績は81回に増加しました。「外出（買い物）弱者支援移送サービス」については市の「おでかけサロン」事業のうちの移送部分について協力する形態で7回実施しました。その他に講座開催事業として11月23日に介護フェスタin長門を開催し多くの参加者が有ったほか、各地区のふるさとまつり会場において無料の福祉総合相談も実施しました。

※ 地域公益活動推進協議会 企画運営会議（企画員12）

開催年月日	のべ出席者数(人)	内 容 説 明
平成31年4月22日～ (のべ12回開催)	200	協議会が実施する事業の企画、提案。調査研究、講座開催、安心相談、生活支援の4部会の運営、及び担当事業の企画・運営

地域公益活動推進協議会の事業企画・運営を担う実働部門として、参画法人、施設から1名ずつの中堅職員で構成された会議です。①調査研究、②講座開催、③広報啓発④生活支援の各部会を編成し、月1回の頻度で開催し毎回活発な協議が行われました。令和元年11月23日に開催した“介護フェスタin長門”においても運営の中心的役割を担いました。

※一般会費収入

※特別会費収入 (単位:円)

	三隅地区	長門地区				日置地区	油谷地区	計		金額
		通地区	仙崎地区	深川地区	俵山地区					
世帯数(戸) ※施設等除く	2,042	523	1,977	5,863	404	1,526	2,666	15,001	団体	47,000
納入額(円)	495,000	147,600	458,700	1,354,400	110,700	398,100	617,500	3,582,000	個人	62,000
納入率	80.80%	94.07%	77.34%	77.00%	91.34%	86.96%	77.21%	79.59%	合計額	109,000

会費は会員規程により一般会費(1口300円)、特別会費(1口1,000円、団体金額は3口以上、個人は1口以上)と定められています。県内の他社協における一般会費額は一口100円~1,000円ですが本会の会費額は比較的低い部類に属しており、人口1人あたりの納入実績額でも県内市部平均の約124.5円(近隣市のH市152.8円、M市334.1円)に対し108.3円となっています。広報誌「しあわせ長門」でもお知らせしておりますが、人件費を除く法人運営経費を分析すると、例年5,000千円~7,000千円程度不足しており、令和元年度は▲6,328千円となりました。一般会費につきましては、現状において値上げのお願いは困難との考えから、当面は現行の300円を維持しつつ、今後も市民の方や関係機関団体に対し、特別会費納入について粘り強くお願いし、法人の基盤強化に努めていきたいと考えております。

※寄付金収入 【決算報告書10ページ:善意銀行事業】

(単位:円)

	湯の家	善 意 銀 行								計	
		法 人	長門地区				三隅地区	日置地区	油谷地区		
			通地区	仙崎地区	深川地区	俵山地区					
平成17年度		-	10,171,311				2,528,973	2,343,681	3,360,600	18,404,565	
平成25年度		280,390	743,000	2,588,000	5,040,175	755,365	1,680,500	1,349,000	4,133,527	16,569,957	
平成26年度	新会計となった27年度より記載	1,290,801	695,000	1,850,000	4,671,000	460,000	1,649,000	1,415,000	2,751,800	14,782,601	
平成27年度	407,614	839,133	1,135,000	1,480,000	3,935,000	550,000	2,066,000	878,000	2,751,000	14,041,747	
平成28年度	621,618	592,856	535,000	2,085,000	3,661,328	291,000	1,259,772	1,575,000	2,518,000	13,139,574	
平成29年度	931,000	459,590	550,000	1,345,038	4,052,000	638,000	1,911,000	1,778,257	3,332,000	14,996,885	
平成30年度	4,701,200	165,776	300,000	1,529,000	4,340,000	365,000	1,545,000	852,000	2,728,705	16,526,681	
令和元年度	5,064,159	260,893	980,000	1,123,000	2,379,000	405,000	1,237,288	1,220,738	1,683,391	14,353,469	
										※うち善意銀行⇒ 一般寄付金収入	9,289,310

(区域別寄付金納入状況内訳)

地区名	香典返し		見舞い返し		一般寄付、その他		合 計	
	件数	寄付合計額	件数	寄付合計額	件数	寄付合計額	件数	寄付合計額
法 人	2	60,000	-	-	42	200,893	44	260,893
湯の家					17	5,064,159	17	5,064,159
通	21	980,000	-	-	-	-	21	980,000
仙 崎	45	1,120,000	-	-	1	3,000	46	1,123,000
深 川	95	2,314,000	-	-	7	65,000	102	2,379,000
俵 山	16	405,000	-	-	-	-	16	405,000
三 隅	63	1,216,150	2	20,000	1	1,138	66	1,237,288
日 置	54	1,100,000	3	45,000	8	75,738	65	1,220,738
油 谷	67	1,545,000	12	105,000	6	33,391	85	1,683,391
合 計	363	8,740,150	17	170,000	82	5,443,319	462	14,353,469

=A

(事業指定寄付)※26年度より新たに掲載

かよいデイサービス	-	-	-	-	1	30,000	1	30,000	⇒善意銀行事業寄附金収入へ	
俵山湯の家	-	-	-	-	6	95,000	6	95,000	⇒※物品の換算額	
								事業寄付金収入計	125,000	=B
								総合計	14,478,469	=A+B

本会にとって貴重な福祉活動財源である寄付金収入には、香典返し・見舞い返し・一般寄付、その他とありますが、香典返しが件数、金額とも多くを占めています。会計基準が変更となった平成27年度より、経理区分として「善意銀行事業」を設け、その用途が分かり易い様に変更しました。令和元年度の主な使いみちは、地域福祉部門として7地区社協及び自治会福祉部助成3,265千円、民生児童委員協議会活動費助成262千円、障害者福祉部門としてたけのこ村事業に500千円、児童福祉部門としてチャイルドシート貸出事業等へ76千円、福祉サービス利用支援(権利擁護・成年後見)事業として1,109千円、住民福祉及び生活支援事業として福祉バス運行事業とはつつ外支支援(車いす利用者の移送サービス)に3,084千円、将来の福祉人材養成を目的とした介護職員初任者研修事業に135千円、罹災見舞い事業に180千円、香典返し返礼ハガキ印刷サービスに237千円等とさせて頂き、市民の皆様の福祉向上に有効に活用させて頂きました。なお、本会が公的な地域福祉事業に使用できる財源は、基本的にこの善意銀行事業費と、以下で報告させて頂く共同募金配分事業費しかなく、加えて本会の本分である公的福祉法人としての地域貢献の意味合いから、厳しい介護保険事業の収益の殆どを地域福祉に関する諸事業に還元・実施しております。なお、人口の減少や、地域経済の後退要因もあり、近年の社協本体への寄付金総額は下降の一途を辿っており、俵山湯の家への事業寄付金収入を除いた金額としては、平成17年度以降、初めて10,000千円の大台を割り込みました。因みに市内の年間死亡者数に対して香典返しを頂いた割合は61%となり、昨年度より約1%減少しました、今後も本会の理念や活動をしっかりPRして、市民の方が「社協に寄付したい」「社協に託したい」と思って頂けるよう、役職員一丸となって努力することが必要です。また、現在実施している香典返し返礼ハガキの無料印刷については、今後も継続したいと考えております。

※市補助金収入 (単位：円) 【決算報告書10ページ：法人運営事業】

年 度	補助対象件数	補助金	補助率
平成17年度	61,826,319	48,974,835	79.2%
平成25年度	57,313,866	40,000,000	69.8%
平成26年度	51,805,440	35,402,000	68.3%
平成27年度	48,765,954	33,968,000	69.7%
平成28年度	43,755,048	30,628,000	70.0%
平成29年度	55,974,379	39,182,000	70.0%
平成30年度	56,837,086	38,000,000	66.9%
令和元年度	56,265,066	39,385,000	70.0%

市補助金収入は、介護保険従事者と委託事業従事者を除く地域福祉推進部門と法人運営部門に従事する補助対象職員14名に対する人件費補助です。直近の9年間についてはほぼ70%で推移していましたが、平成30年度については66.9%となり若干低下しました。しかしながら令和元年度については従来どおり70%の補助を確保できました。同部門は住民同士や関係団体、ボランティア等による自助・互助・共助を推進する社協組織にあって法律上にも位置づけられた最も重要な部署であり、本来であれば全額が補助金収入で賄われるべきところですが、本市の厳しい財政状況もあって、広域合併後は不足分を本会の介護保険部門収益の大部分を投入し、補填してきている状況です。しかし、近年の度重なる介護報酬の減額改定により、現在は同部門の収益が殆ど期待できない状況であり、このままでは法人の存続自体が危ぶまれる状況です。なお、職員の処遇については平成22年度より自発的に給与表の見直しに加え、各種手当なども大幅に減額改定して県内最低となっており、このままでは今後の人材確保もままならない現状です。なお、令和2年度については一筋の光明もあり、100%補助の予算要求に対し80%を認めて頂き、虎の子の財政調整積立金を全額取崩しすることで何とか持ちこたえられそうな状況です。

※基金・その他積立預金(社協分抜粋) 【決算報告書29ページ：貸借対照表】

年 度	VO基金積立金	福祉基金積立金	人件費積立金	備品等購入積立金	財政調整積立金	運営資金積立金等	計	
平成17年度	67,174,377	2,710,087	26,277,000	7,795,636	27,503,810	14,921,622	146,382,532	
	VO活動支援積立金	福祉の里積立金	人件費積立金	備品等購入積立金	財政調整基金積立金	運営資金積立金	介護保険事業施設・設備整備積立金	
平成25年度	17,200,000	0	0	0	34,800,000	0	64,580,000	
平成26年度	0	0	0	0	34,800,000	40,000,000	99,960,000	
平成27年度	0	0	0	0	34,800,000	40,000,000	110,540,000	
平成28年度	0	0	0	0	34,800,000	40,000,000	110,540,000	
平成29年度	0	0	0	0	34,800,000	40,000,000	110,540,000	
平成30年度	0	0	0	0	34,800,000	0	59,960,000	
令和元年度	0	0	0	0	20,000,000	0	45,160,000	

本年度は、財政調整積立金の一部14,800,000円を取り崩し、積立金合計45,160,000円となりました。この財政調整積立金の取り崩しの理由については、法人本体の運営費の不足分を補うため、合併以降、継続して介護保険事業より多額の繰入を行って参りましたが、度重なる介護報酬の減額改定により、現状では介護保険事業自体を継続することが精一杯となっており、これ以上の繰り出しは不適切と判断したためです。

※社会福祉大会

社会福祉大会については、本会が推進するふれあい・いきいきサロンや自治会福祉部活動等、地域で福祉活動を実践されている方々を地区社協単位で表彰できる体制にシフトすることを目指しています。加えて、ボランティア活動事例の発表による学習の場や、福祉団体やグループ等による出店など、住民参加型の福祉まつり的なイベントを支援するため、本会の表彰規程を改正し、地区社協表彰行事助成事業を継続実施しました。令和元年度長門市社会福祉会会長表彰被表彰者は12名、感謝状贈呈者は1団体でした。地域福祉の啓発に今後も支援していきたいと思えます。

※赤い羽根共同募金 【決算報告書10ページ：共同募金配分事業】

★共同募金年度別募金実績

(単位：円)

年 度	長門市共同募金委員会合計額	うちA配分充当額	うちC配分充当額
平成17年度	13,921,300	3,390,000	-
平成25年度	9,511,045	2,740,000	-
平成26年度	7,560,965	2,720,000	-
平成27年度	7,348,484	2,680,000	350,000
平成28年度	7,499,372	2,680,000	350,000
平成29年度	7,242,395	2,480,000	350,000
平成30年度	7,023,177	2,478,000	350,000
令和元年度	7,016,722	2,490,000	260,000

令和元年度種別実績内訳

募金種別	金額(単位：円)	割合(%)
戸別募金	5,453,000	77.71%
法人募金	793,986	11.32%
職域募金	187,094	2.67%
学校募金	161,443	2.30%
街頭募金	103,910	1.48%
イベント募金	188,841	2.69%
その他	128,448	1.83%
合 計	7,016,722	100.00%

募金実績全体では、対前年比99.9%とほぼ同額になりました。募金種別に見ると、イベント募金が対前年比151.5%、職域募金が101.0%と増額になりましたが、それ以外は減額となっています。「歳末たすけあい事業」については、引き続き「赤い羽根ステッキ配分事業」を行い、高齢者など足腰が弱く歩行が困難な方を対象に長さ調整が可能なアルミ製のステッキを配布し大変好評でした。またフードバンク事業においては、生活困窮者自立支援事業の対象者2名に対し食糧品を給付することで、自立に向けた支援を行いました。

★共同募金配分実績 ※共同募金経理区分間繰出・繰入後の金額。資金収支計算書の経常支出額と一部合致しない。

B(地域)活用実績(平成30年度募金実績による事業)

30年度実績	市社協合計額	主 な 事 業 内 容
高齢者福祉	2,241,553	ふれあいベンチ設置事業、ふれあい・いきいきサロン助成事業、家族介護者交流会開催事業、救急カプセルくじらくん配付事業
障害児・者福祉	760,000	団体等助成(身体障害者福祉協会、手をつなぐ親の会、発達障害を考える会「ブルースター」)、「たけのこ村」運営支援
児童青少年福祉	110,000	チャイルドシート貸出事業、福祉教育出前講座事業、団体等助成(ことばの教室親の会)
母子・父子福祉	40,000	団体等助成(母子寡婦福祉会)
地域活動支援	856,849	自立支援ホーム整備事業、広報作成費、車輛貸出事業、団体助成(おしゃべりカフェうさぎ)
ボランティア活動支援	191,575	ボランティア活動推進事業(ボランティア保険加入助成等)、夏休み手話講座開催、ボランティア交流会(※中止)
歳末たすけあい	260,000	赤い羽根ステッキ給付事業、フードバンク事業、支援困難者対策事業
合 計	4,459,977	※ = 7,023,177円(合計額) - 2,478,000円(A配分充当額) - 90,000円(歳末減額分) + 4,800円(雑収入)

※広報啓発活動

広報紙発行

	事務局	通地区社協	仙崎地区社協	深川地区社協	俵山地区社協	みすみ地区社協	日置地区社協	ゆや地区社協
回 数	6	0	0	2	0	2	2	1
経 費(円)	1,183,116	0	0	80,535	0	148,240	116,964	93,500

市社協の広報紙『しあわせなごと』を年6回(奇数月の1日)発行。全世帯に配布し地域福祉に関する情報を提供しており、市民の目線で皆さんに親しみやすい紙面づくりを心掛けています。そのうち3月1日号は共同募金の特集号です。また、引き続き4つの地区社協でも年に1~2回広報紙を発行しており、地域住民が福祉活動をより身近に感じられるよう情報提供と啓発を図っています。

ホームページアクセス件数（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

アクセス場所	件数	前年対比
長門市内から	2,188	524
長門市を除く日本国内から	7,149	916
外国から	153	▲542
合計	9,490	898

ホームページについては、より専門的な情報発信と経費の削減を図るため、現在は職員2名が行なっています。開設以来、平成27年度をピークとして減少していたアクセス件数は前年度対比で898回増加しました。そのうち、市民の方からのアクセスは過去最高の2,188回でプラス524回となりました。その要因を部門別アクセス数から分析してみると、事業紹介へ2,316件、問合せ先検索717件、法人情報519件、地区社協活動446件等となっており、特に本会が実施する各種事業への関心が高まっていることが伺えます。

今後も市民の皆さんに、様々な福祉制度や事業、活動のお知らせや市内外の出来ごと等を積極的に発信していきたいと考えております。次に、よりタイムリーな情報発信を目的に活用しているフェイスブックについては年度通算で98回更新し、合計で9,121回の閲覧がありました。令和元年度の傾向としては、昨年度と同じく災害ボランティア関係の情報発信に関するアクセスが突出していることから、万が一必要が生じた際には、全国のボランティア等による情報収集のツールとなる事が予想されるため、平常時から運営の技術を高めておく事が必要となります。

ふれあいベンチ設置状況

(平成30年3月31日現在)

	通地区	仙崎地区	深川地区	俵山地区	三隅地区	日置地区	油谷地区	合計
R1新設台数	0	1	0	0	0	0	0	1
R1交換台数	0	2	3	0	3	3	2	13
設置台数	0	3	3	0	3	3	2	14

本会のふれあいベンチ交付管理規程に基づき、自治会長からの申請により設置しました。設置後は、地域の財産として地元自治会が責任を持って維持管理を行うようお願いしています。設置するベンチは、平成22年度より耐久性に優れたスチール・プラスチック製のものを導入しています。

令和元年度は、老朽化に伴う交換を仙崎、油谷地区で2ヶ所、深川、三隅、日置地区で3ヶ所、新規設置を仙崎地区で1ヶ所行いました。

※各種資金貸付

	資金内訳	相談件数	貸付件数	貸付金額(円)
法外援護資金	法外援護資金(生保緊急小口)	12	12	220,000
	緊急一時支援費	0	0	0
	生活再建支援費	9	7	1,040,000
	合計	21	19	1,260,000

市社協独自の「法外援護資金貸付事業」は、4,425千円を原資とし低所得者世帯を対象に緊急時の貸付を行いました。生活困窮者自立支援事業と一体化したことにより、単なる貸付ではなく、対象者の自立に向けた生活再建のための手段として、大きな役割を果たしています。貸付相談実績は、昨年度より2件減り21件、貸付実績は昨年度と同数の19件でした。

	資金内訳	相談件数	貸付件数	貸付金額(円)
生活福祉資金	総合支援資金	0	0	0
	福祉資金	0	0	0
	緊急小口資金	7	1	200,000
	教育支援資金	0	0	0
	不動産担保型生活資金	0	0	0
合計	7	1	200,000	

生活福祉資金については、相談実績が7件、貸付実績は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急小口資金の特例貸付が1件ありました。今後も引き続き、生活困窮者自立支援事業及び市地域福祉課保護係をはじめとする関係機関・団体との連携を強化し、対象者の支援体制を更に充実・強化させていくことが重要となります。

★地域福祉活動部門 【決算報告書10ページ：地域福祉事業】

◎地域福祉活動の推進

事業名	長門地区				三隅地区	日置地区	油谷地区
	通	仙崎	深川	俵山			
①地区社協活動推進事業	総会1回、理事会2回	理事会1回、評議員会1回	総会1回、理事会4回	総会1回	総会1回、役員会5回	総会1回 運営委員会3回	総会1回 役員会4回
②友愛訪問活動推進事業	65歳以上独居・75歳以上ふたり暮らし高齢者等対象(配食)	75歳以上独居高齢者等対象(配食)			70歳以上独居・75歳以上ふたり暮らし高齢者等対象(お菓子等)	70歳以上独居高齢者対象(配食、誕生プレゼント)	80歳以上高齢者対象(お菓子等)
③福祉員活動推進事業	福祉員集会、研修会での啓発						
④福祉の輪づくり運動研修事業	小地域グループ代表者会議4回、福祉部会議6回	福祉員会議1回	役員研修会1回		福祉員集会3回	福祉員研修会2回	福祉員集会1回 福祉の輪づくり運動研修会1回
⑤小地域福祉活動推進事業	ふれあい昼食会2回		ふれあい料理教室、サロン会助成事業	黄色い旗運動、男性料理教室	ふれあいの集い、料理教室	自治会福祉部活動、男性料理教室、サロン担い手講座	12地区福祉推進委員会活動
⑥その他事業	各種講習会開催事業、グラウンドゴルフ大会、敬老会	認知症徘徊模擬訓練、3世代交流スポーツ事業	スタートブック事業、広報紙発行	3世代交流グラウンドゴルフ大会、敬老会	スタートブック事業、こども未来教室、災害支援事業、広報紙発行	子どもすくすく育成事業、広報紙発行	ふれあい福祉まつり、広報紙発行
⑦自治会福祉部設置	4	8	23	4	13	31	12

平成29年3月に、行政との協働で策定した第3次「長門市地域福祉活動計画」に基づき諸事業を実施しました。5ヶ年計画の3年目に当たり、計画の具体的な活動内容を職員間でしっかり確認しながら事業に取り組みました。市内7つのエリアに地域福祉を推進する母体として位置付けられた地区社協への支援については、市社協の一般会費、香典返し等の寄付金から引き続き活動費を助成し、財政基盤の強化を図ることで地区社協がより主体性を持った活動ができるよう支援しました。2月以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、急遽、中止になる行事もありました。

地域コミュニティの活性化を図るため市内全地区で設置を進めている「自治会福祉部」については、昨年度より1多い64ヶ所(市内全域の64.4%)に設置助成をしました。住民同士で身近な地域の福祉・生活課題について話し合うとともに、高齢者等の見守りなど具体的な福祉活動に取り組みました。

認知症に限らず在宅で家族を介護されておられる方の支援については、家族会介護者ミニ交流会として年5回開催(3月が中止)し、延べ66名の方が参加されました。今後も引き続き、交流会の諸行事等を通じて対象者を精神的に支援していくとともに、行政や関係機関とも連携しながら市内全域で認知症を含めた家族介護者を支える体制づくりを構築していきます。

★在宅福祉サービス部門 【決算報告書12～13ページ】

住み慣れた地域で、高齢者や障害者がいきいきと暮らしていくために各種事業を展開しました。令和元年度は4月に、地域共生社会の実現に向けた取り組みの一環として地域包括ケアシステムの深化・推進を目指し、長門市から地域包括支援センター業務の委託を受け「西地域包括支援センター」を油谷保健福祉センター内に開設しました。日置・油谷地区を担当し、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員の専門職4名を配置し、地域に身近な相談対応と地域づくりを担います。介護保険制度の改正により、平成28年度から介護予防・日常生活支援総合事業が開始、30年度は報酬改定で減額となった通所介護事業の収入が大きく影響を受けましたが、今年度は10月の消費税率変更に伴う介護報酬のプラス改定と、各事業所の積極的なPRや営業努力を実施した結果、昨年度に比べ収益が増加となりました。また新たに新設された特定処遇改善加算を取得し、介護職員等のさらなる処遇改善として配分を行いました。また、26年度黒字化に成功した小規模多機能ホームひだまり長門については5期連続の赤字経営となり、抜本的な運営体制の見直しが課題となっています。なお、平成25年度より各事業所ごとに車両の更新や施設の改修、人件費や設備整備の確保等のため計画的に積立を行っていましたが、昨年度に引き続き今年度も施設・整備積立は行いませんでした。また本会にとって唯一の収益を得ることのできる部門から、法人運営、地域福祉推進の2部門に対し、不足分合計15,165千円を繰出しました。

①居宅介護支援事業 【決算報告書12ページ：居宅介護支援事業】

年 度	長門事業所（17年度は長門+日置合算）				油谷事業所				居宅介護支援事業所合算	
	事業活動収入 （+過年度修正）	事業活動支出 （+退職共済掛金）	差 額	当期末資金残高	事業活動収入	事業活動支出 （+退職共済掛金）	差 額	当期末資金残高	差額計	当期末資金残高
平成17年度	10,955	11,383	▲ 428	1,818	8,390	6,367	2,023	5,146	1,595	6,964
平成25年度	8,584	8,386	198	3,875	14,540	11,143	3,397	15,058	3,595	18,933
平成26年度	8,554	7,283	1,271	3,146	14,005	11,307	2,698	16,655	3,969	19,801
平成27年度	9,336	7,606	1,730	4,875	16,289	13,640	2,649	18,205	4,379	23,080
平成28年度	8,636	7,820	816	4,721	18,886	15,972	2,914	15,220	3,730	19,941
平成29年度	9,158	7,804	1,354	5,076	17,994	13,940	4,054	14,274	5,408	19,350
平成30年度	9,870	7,649	2,221	6,296	16,650	14,275	2,375	8,650	4,596	14,946
令和元年度	5,645	4,630	1,015	5,311	16,510	13,368	3,142	7,481	4,157	12,792

長門事業所については20年度途中で行なった事業所統合や平成23年度より正職員から常勤嘱託職員への職員体制の見直しにより、赤字体質に歯止めがかかり、平成23年度より黒字に転じています。令和元年度については、5月末で職員1名が退職となり、担当利用者を他の居宅へ異動したため、入所等も含めた契約終了が36名と多く減収となっています。職員体制については、嘱託職員1名となっています。油谷事業所については当地区が過疎特別加算地域で安定した収入が見られますが、正職員の主任ケアマネが西包括に異動となったため、担当できる件数が減り、利用者数については月平均120名、前年度に比べて月平均15名減で、減収となっています。職員体制は正職員1名、嘱託2名の3名体制となっています。両事業所とも職員の補充ができておらず、介護支援専門員の確保が急務となっています。一般的に経営が厳しいといわれる居宅介護支援事業所ですが、採算性第一主義ではなく、利用者の立場に立った適切なサービス計画の作成と生活相談・支援提供に引き続き努力して参ります。

②訪問介護事業（身障訪問介護を含む） 【決算報告書12ページ：訪問介護事業、13ページ居宅介護重度訪問介護事業】

（単位：千円）

年 度	長門事業所（平成20年度までは三隅、日置事業所合算）				ゆや事業所				訪問介護事業所合算	
	事業活動収入	事業活動支出 （+退職共済掛金・ +過年度修正）	差 額	当期末資金残高	事業活動収入 （+過年度修正）	事業活動支出 （+退職共済掛金）	差 額	当期末資金残高	差額計	当期末資金残高
平成17年度	31,932	26,748	5,184	15,375	32,247	30,525	1,722	8,087	6,906	23,462
平成25年度	49,782	42,844	6,938	18,586	42,231	30,613	11,618	31,657	18,556	50,243
平成26年度	45,894	44,867	1,027	13,602	46,153	33,406	12,747	25,704	13,774	39,306
平成27年度	52,213	45,307	6,906	13,606	49,570	35,910	13,660	31,313	20,566	44,919
平成28年度	43,571	39,914	3,657	16,637	47,924	34,246	13,678	33,067	17,335	49,704
平成29年度	44,730	40,328	4,402	17,038	49,177	42,100	7,077	27,144	11,479	44,182
平成30年度	43,832	40,206	3,626	10,664	50,488	46,176	4,312	12,672	7,938	23,336
令和元年度	49,370	43,925	5,445	11,902	51,887	46,836	5,051	11,516	10,496	23,418

長門事業所については、月平均利用者数は119名、年間延べ利用回数は16,121回で、30年度と比べて1,818回増加し、大幅な増収となりました。支出の増加については、稼働が増えたことと、非常勤職員2名を嘱託職員に登用しましたので、その分の人件費が増えたことによるものです。

ゆや事業所については、月平均利用者数が100名、年間延べ利用回数が17,607回で、昨年度より月平均で2名、延べで1,062回減少していますが、報酬単価の高い身体介護が増えたため、増収となっています。職員については、非常勤ヘルパーが2名退職となりましたが、補充ができていない状況です。両事業所とも人員不足が常態化しており、今後も質の高いサービスが提供できるよう、経営的に可能な範囲で職員の常勤化を図るとともに、資格取得の奨励や研修受講等の支援を行い、人員の定着・人材確保を進めていくことが喫緊の課題と考えます。

③訪問入浴事業（身障訪問入浴含む） 【決算報告書12ページ：訪問入浴介護事業、13ページ：地域生活支援事業】

（単位：千円）

年 度	長門事業所				ゆや事業所				訪問入浴介護事業所合算	
	事業活動収入	事業活動支出 （+退職共済掛金）	差 額	当期末資金残高	事業活動収入	事業活動支出	差 額	当期末資金残高	差額計	当期末資金残高
平成17年度	3,848	3,815	33	3,174	3,610	2,288	1,322	665	1,355	3,839
平成25年度	7,219	6,031	1,188	1,657	1,373	1,021	352	2,160	1,540	3,817
平成26年度	5,580	5,632	▲ 52	1,105	1,873	1,045	828	2,488	776	3,593
平成27年度	6,911	5,785	1,126	2,231	1,558	1,188	370	2,858	1,496	5,089
平成28年度	9,752	6,899	2,853	4,584	1,382	864	518	2,877	3,371	7,461
平成29年度	9,713	7,388	2,325	8,667	-	118	▲ 118	-	2,207	8,667
平成30年度	13,685	8,750	4,935	8,601					4,935	8,601
令和元年度	11,178	7,237	3,941	7,542					3,941	7,542

訪問入浴事業は社会福祉事業の中でも公益事業のひとつに掲げられており、公的な社会福祉法人である本会にとっては仮に赤字となっても継続して実施していくべき事業のひとつと考えています。29年度末で油谷事業所については廃止をし、30年度からは長門事業所1ヶ所ですべて実施しています。昨年度は廃止された他事業所の利用者5名を受入れたため大幅な増収となりましたが、令和元年度については実利用者数は月平均19名、年間延べ利用回数は584回、身障訪問入浴は245回の計829回で、昨年度と比べて延べ回数で196回減少したため、減収となりました。支出についても、稼働が減った分、減少となっています。今後も、市内で唯一の訪問入浴介護事業所として、さらにサービスの質の向上と業務内容の見直しによる事業の効率的運営に努めていきます。

④通所介護事業 【決算報告書12ページ：通所介護事業】

（単位：千円）

年 度	長門事業所（一般型）				ゆや事業所（小規模型）				通所介護3事業所合算	
	事業活動収入	事業活動支出 （+退職共済掛金、 +過年度修正）	差 額	当期末資金残高	事業活動収入	事業活動支出 （+退職共済掛金）	差 額	当期末資金残高	差額計	当期末資金残高
平成17年度	46,098	37,749	8,349	9,385	13,970	14,121	▲ 151	469	8,198	9,854
平成25年度	64,173	51,715	12,458	20,874	36,969	27,730	9,239	28,618	21,697	49,492
平成26年度	68,288	52,616	15,672	11,681	37,520	27,962	9,558	6,526	7,564	18,549
平成27年度	67,325	53,928	13,397	17,197	36,183	27,121	9,062	9,189	23,565	27,834
平成28年度	65,723	56,522	9,201	22,752	36,206	27,396	8,810	7,939	17,503	31,631
平成29年度	69,483	62,957	6,526	18,279	36,165	29,135	7,030	5,969	17,448	29,080
平成30年度	63,539	64,046	▲ 507	15,953	33,752	31,413	2,339	8,309	156	27,020
令和元年度	62,953	57,825	5,128	12,812	34,584	32,655	1,929	8,134	8,460	25,033

年 度	かよい事業所 (小規模型)			
	事業活動収入	事業活動支出 (+退職共済掛金、過年度修正)	差額	当期末資金残高
平成26年度	3,210	20,876	▲ 17,666	342
平成27年度	18,836	17,730	1,106	1,448
平成28年度	24,433	24,941	▲ 508	940
平成29年度	28,270	24,378	3,892	4,832
平成30年度	27,390	29,066	▲ 1,676	2,758
令和元年度	23,741	22,339	1,402	4,087

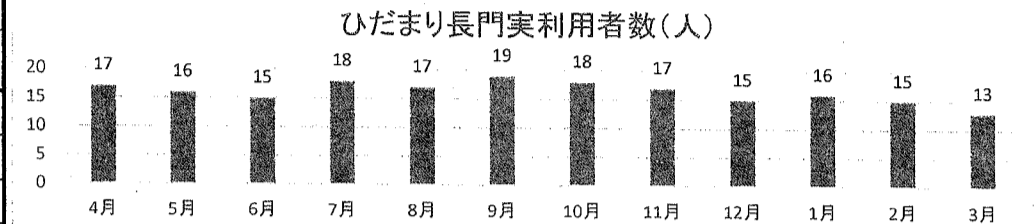
長門事業所については、年間延べ利用者数が7,078人、定員30名に対して1日平均利用者数は23.0人、昨年度と比べて延べ人数で15人増加となりましたが、報酬単価の低い軽度の利用者増により、減収となっています。支出の減少については、正職員と嘱託職員を他事業所へ異動し、代わりに嘱託職員と非常勤職員を配置したこと、年度途中で嘱託職員2名が退職となり、人件費の大幅削減によるもので、昨年度に比べ、大幅増益となっています。

ゆや事業所については、年間延べ利用者数が3,394人、定員14名に対して1日平均利用者数が10.8人で、昨年度と比べ延べ人数で78人増加した分、増収となりました。支出については、嘱託職員の機能訓練指導員を配置したため、人件費が増えたことによるものです。

かよい事業所については開所6年が経過、今年度から開所日を週5日に減らし、年間延べ利用者数が2,586人、定員14名に対して1日平均利用者数は8.0人、昨年度に比べて延べ人数で447人減少しています。支出については営業日が減ったこと、嘱託職員1名が退職したことで人件費が減り、大幅に減少しています。当事業所は地域住民の要望により開設に至った事業所で、29年度に改修した空きスペースについては、デイ利用者の活動や運営推進会議の開催、地域のいきいきサロンの会場等として定期的に活用されています。3事業所とも引き続き、サービスの質の向上と定員充足率の向上に努めていきます。

⑤小規模多機能ホームひだまり長門 【決算報告書12ページ：小規模多機能居宅介護事業】

年 度	ひだまり長門			
	事業活動収入 (+過年度修正)	事業活動支出 (+退職共済掛金、過年度修正)	差額	当期末資金残高
平成24年度	28,032	40,698	▲ 12,666	1,364
平成25年度	43,769	45,190	▲ 1,421	1,443
平成26年度	52,458	48,696	3,762	3,588
平成27年度	50,571	50,830	▲ 259	3,328
平成28年度	43,601	50,353	▲ 6,752	1,576
平成29年度	39,210	49,201	▲ 9,991	1,586
平成30年度	39,548	48,296	▲ 8,748	1,455
令和元年度	34,852	47,464	▲ 12,612	1,842



⑥グループホームやすらぎの里 【決算報告書：12ページ：グループホーム事業】

年 度	やすらぎの里			
	事業活動収入	事業活動支出 (+退職共済掛金、過年度修正)	差額	当期末資金残高
平成30年度	34,669	34,978	▲ 309	5,262
令和元年度	35,446	41,227	▲ 5,781	2,481

平成24年3月より地域密着型サービスの一つである小規模多機能型居宅介護施設を開設しています。当事業につきましては収益が出にくい事業で、当事業所の採算ラインとしては概ね登録者数21名~22名です。26年度は開設以来、初めての黒字経営となりましたが、27年度は再度赤字決算となり、28年度からは短期利用の受け入れを開始、短期の泊りニーズは多いものの新規登録者が少なく、認知症の進行や重度化に伴い入院や施設入所等が増え、令和元年度の平均利用者数は16人前後で推移し、大幅な赤字決算となりました。今後はさらに新規利用者獲得のため、住み慣れた自宅や地域での生活を継続しながら、多様なサービスを選択できる当ホームの利点をPRし、地域と連携を図りながら潜在的な利用者の拡大に努めていく所存です。

新規事業として平成30年6月にオープンしたグループホームやすらぎの里は、1ユニット9名の定員で、令和元年度の年間平均入居者数は8.2人、平均介護度は2.2で、認知症の進行や基礎疾患等の悪化による入院が多く、常時9名満床の月がほとんどなく、介護報酬10ヵ月分の昨年度とほぼ変わらない収入額となっています。支出については、職員の定着・負担軽減を図るため、非常勤介護職員を嘱託に登用、さらに介護職員を2名増員、訪問入浴と兼務だった看護職員を専従としたため人件費が大幅に増えたことにより、赤字決算となりました。入居率向上を図るため、今後も入居者の健康管理に努め、認知症対応の専門性を高めていきます。

⑦閉じこもり予防/地域版デイサービス事業利用実績 【決算報告書12ページ：通所介護事業】

(単位：人)

年 度	三隅地区	長門地区				日置地区	油谷地区	計
		通地区	仙崎地区	深川地区	俵山地区			
平成17年度	-	963	505	929	592	-	343	3,332
平成25年度	920		375	771		-	102	2,168
平成26年度	967		291	582		-	98	1,927
平成27年度	848		406	657		-	73	1,984
平成28年度	1,074		423	755		-	73	2,325
平成29年度	1,008		613	736		-	-	2,357
平成30年度	973		653	741		-	-	2,367
令和年度	870		623	590		-	-	2,083
実利用者数 (年度末)	19		14	13		-	-	46
スタッフ数	3		3	3		-	-	5
1日平均 利用人数	5.9		6.3	5.9		-	-	
事業費※支出額 (千円)	2,841		1,578	1,884		-	-	6,303

※仙崎、深川3名は兼務

※本事業は市委託事業で、平成28年度までは事業費補助方式で運営していましたが29年度より一般的な受託方式となったため、黒字が出た場合は本会の利益となる契約に変更となりました。会場は介護保険の通所介護事業と完全に分離して実施しており、油谷地区については29年度より地区内のNPO法人が受託したため撤退となりました。今後は利用者人数やプログラム内容等の状況により運営スタッフの人数を調整するなどして、慢性的な赤字にならない様つとめます。

⑧西地域包括支援センター 【決算報告書12ページ：西包括支援センター】

「西地域包括支援センター」は平成31年4月より、長門市から委託を受け、油谷保健福祉センター内に設置、職員は保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員の4名体制です。主な業務として、各専門職がそれぞれの専門知識を活かしたチームアプローチをすることにより、担当の日置・油谷地域のニーズを的確に把握し、地域において包括的支援事業(総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント)を行っています。また指定介護予防支援事業者として介護予防支援事業を行い、要支援者への効果的な支援を行うとともに、総合事業の対象者には介護予防ケアマネジメントを実施することで、介護予防を推進していきます。

(1) 総合相談件数

相談内容	件数	内 容
医療に関すること	81	保健・医療、認知症、精神疾患に関すること
介護に関すること	121	介護保険に関すること、介護一般の相談
生活支援に関すること	216	同行訪問、在宅福祉サービス、障害福祉、日常生活相談、生活保護・経済的困窮に関すること
介護予防に関すること	52	介護予防事業に関すること
住まいに関すること	20	施設入所に関すること、住宅改修・福祉用具に関すること
権利擁護に関すること	5	成年後見制度、虐待に関すること
その他	9	家族間の問題に関すること、緊急対応、苦情等
計	504	

地域の高齢者が住み慣れた地域で、安心して自分らしい生活を継続していくことができるよう、医療、保健、福祉サービスの「ワンストップ相談窓口」として相談機能の充実を図り、積極的な地域の高齢者の実態把握や地域の関係機関等とのネットワークを構築し、適切な支援につなげていきます。

(2) 計画作成

種別	件数	
予防給付	新規	9
	継続	216
総合事業	新規	10
	継続	243

(3) 一般介護予防事業

内容	件数	実人数
地域介護予防活動支援事業	6	106
いきいき百歳体操	6	103
介護予防講座開催事業	17	297
転倒予防出前講座	3	55
認知症予防出前講座	10	180
その他の介護予防講座	3	58
足腰元気講座	1	4
脳げんき講座	0	0

地域で開催されるサロン会等において、出前講座等を実施し、地域住民の方々に対し、介護予防の知識の普及・啓発を図っています。また、地域における介護予防のための自主活動グループ立ち上げや育成支援を行っています。「いきいき百歳体操」や「足腰元気講座」等、講座の開催を地域包括支援センター間で協力し、実施しています。

プラン作成においては、利用者のニーズに合わせたサービス調整、情報提供を第一に考え、サービス提供事業所の選定にあたっては、偏りがないよう公正中立にサービスを提案しています。

◎障害者や高齢者等を対象とした事業

(単位：千円)

年度	障害者総合支援法に係る事業		高齢者等対象の事業(抜粋)		福祉バス運行事業				福祉用具貸出・給付事業	
	ガイドヘルプ	長門市手話奉仕員派遣・養成	はつらつ外出支援	介護予防日常生活総合事業(緩和型訪問)	利用回数(回)	事業費(千円)	利用団体	回数	種類	回数
平成17年度	431	-	394	1,613	-	-	老人クラブ	11	車イス	53
平成25年度	266	86	1,492	284	138	1,972	サロン	89	赤い羽根ステッキ給付事業(本)	
平成26年度	333	163	1,102	159	132	1,642	障害者	0	事務局	31
平成27年度	209	219	930	89	156	1,647	当事者・地域福祉	11	三隅支所	5
平成28年度	229	155	1,633	134	146	1,626	自治会・婦人会	2	日置支所	1
平成29年度	141	247	1,552	52	135	2,061	敬老会	3	油谷支所	27
平成30年度	161	260	970	91	157	2,631	その他	22		
令和元年度	171	288	3,021	91	138	3,008	合計	138	合計	64

地域生活支援事業であるガイドヘルプ事業(移動支援)については、対象者の高齢化等により依頼件数は昨年度と比べほぼ変わらず横ばいでした。手話奉仕員派遣事業については、手話奉仕員等5名で53回の派遣を行い、昨年度より12回増えました。そのうち、病院の受診と介護に関する派遣が28回と大半を占めています。また、市より受託の手話奉仕員レベルアップ事業につきましては、聴覚障害者との交流を目的とした「聴々サロン」(毎月1回開催)を通じて聴覚障害者への理解を深めるとともに、現手話奉仕員登録者及び参加者の手話技能のスキルアップを図りました。

はつらつ外出支援事業については利用料収入が昨年対比176%と大幅な伸びを示しています。また運転手を嘱託雇用したための人件費を含む支出も大幅に増加しました。福祉バス運行事業では、市内の高齢者、障害者、自治会や公共的な福祉団体等に対し無料でバスを運行しています。令和元年度は、3月から新型コロナウイルスの感染拡大の影響で運行を休止したこともあり、昨年度より19件少ない138件の利用になりました。利用実績の内訳は、老人クラブ11回、サロン89回、それ以外の団体等が38回となっています。その中には、平成27年度より地域別の開催となった敬老会3回が含まれています。

福祉用具貸出事業については、車イスの貸出し件数が53件と昨年度より44件減少。赤い羽根ステッキ給付事業も、昨年度より大幅に減少し64本となりました。

★住民参加型福祉サービス部門(住民参加型福祉サービスの推進) 【決算報告書10ページ：地域福祉事業】

年度	サービスまごころ・ファミリーサポートセンター事業						ファミサポ実績		まごころ実績	
	収入(千円)	支出(千円)	差額(千円)	まごころ実利用者数(人)	まごころ実施回数	ファミサポ利用回数	サービス内容	活動回数	サービス内容	活動時間
平成17年度	2,671	4,792	▲2,121	88	2,644	-	保育施設の開始前・終了後の預り	5	住居等掃除・買物・安否確認等	294.5
平成25年度	3,704	3,723	▲19	54	1,343	133	学校や保育施設までの送迎	182		
平成26年度	3,280	3,318	▲38	32	1,063	296	学校・自宅・児童クラブ等の送迎	181	病院付添	75.5
平成27年度	2,595	2,643	▲48	30	385	266	子どもの病気等の預り	5	庭掃除・草取り	19.0
平成28年度	2,479	2,545	▲66	34	290	141	子どもの習い事の送迎	21	移乗介助等	14.5
平成29年度	2,235	2,369	▲134	22	155	211	保護者の就労・病気等の時の預り	15	合計	403.5
平成30年度	2,361	2,412	▲51	20	121	271	合計	409		
令和元年度	2,566	3,197	▲632	22	301	409				

サービスまごころについては、年々実施回数が減少している現状を踏まえ、その対策として、仙崎地区において地域エリア支援員の協力のもと事業のPR活動を積極的に行った結果、協力会員への登録者数が増加しました。また、新たに登録された協力会員を対象に研修会を開催したことで、実績も大幅に増やすことができました。今後は、他地区においても事業のPR活動を積極的に行っていきたいと思っております。

ファミリーサポートセンター事業については、引き続き、子育てサロンや各種イベント等で積極的にPRするとともに提供会員の新規獲得に努めた結果、利用回数は昨年度と比べ138回増えています。

(ふれあい・いきいきサロン・ボランティアの推進)

年度	ふれあい・いきいきサロン		サロン担い手養成研修参加人数	ボランティア登録人数
	箇所数	参加人数		
平成17年度	41	825	181	1,630
平成25年度	66	1,130	96	548
平成26年度	69	1,394	91	522
平成27年度	73	1,274	109	511
平成28年度	76	1,286	86	490
平成29年度	80	1,320	78	462
平成30年度	86	1,455	89	460
令和元年度	83	1,426	88	441

ふれあい・いきいきサロンについては、新たに長門の深川地区(田屋自治会)に1ヶ所設置されましたが、長門で2ヶ所、日置、油谷地区でそれぞれ1ヶ所休止になり、全体では83ヶ所(市社協より助成)になりました。市内で世帯数が一番多い田屋自治会において新たに設置されたことは大変喜ばしく、今後も引き続き地区の福祉活動の拠点として、その役割が大いに期待される所です。

しかしながら、今後、担い手や参加者の高齢化等の理由で参加人数が減り、活動が停滞、または休止するサロンが更に増えることが予想されるため、サロン活動を自治会活動の一環として位置付けることで活性化を図るとともに、サロンリーダー養成研修において後継者の育成と担い手のスキルアップを行うことで、少しでも長く活動していただけるよう支援してまいります。

ボランティアグループ・個人ボランティア全体の登録人数は19名の減少となりました。昨年度に続き、長門、日置地区にあるボランティア連絡協議会を中心に市内の登録ボランティア同士の交流や情報交換を開催しボランティア活動への認識を深めましたが、多くのボランティアグループにおいては、会員の高齢化による減少や後継者不足が一向に改善されていません。今後は、災害ボランティアを含め新たなボランティアの掘り起しや若い世代へのPR及び育成・登録に力を入れるなど、抜本的な改革をしていく必要があると思われまます。

★福祉サービス利用支援部門（権利擁護事業） 【決算報告書10ページ：受託事業】 (単位：人)

事業名	長門地区	三隅地区	日置地区	油谷地区	合計	摘 要
認知症高齢者等	1	2	0	0	3	新規契約1、成年後見人管理1
知的障害者等	6	3	0	1	10	新規契約1
精神障害者等	12	6	1	0	19	新規契約5、死亡2
その他	0	1	0	1	2	死亡1
合 計	19	12	1	2	34	新規契約7、死亡3、成年後見人管理1
(成年後見事業)	法定後見契約(受任終了)0		任意後見契約(将来型)0			
相談件数・内容	成年後見開始申立支援				0	
	成年後見に関する相談				2	
	成年後見人候補者申立て				0	

自分で金銭管理が難しい方に代わって生活費の管理や重要書類の保管、福祉サービス受給などの手続きを行う地域福祉権利擁護事業については、利用者の死亡による終了件数が3件。新規契約締結件数は7件で、年度末の利用者数は昨年度より3名増え34名となりました。分類すると認知症3名・知的10名・精神19名・その他2名となっています。本会との契約以前に抱えた多額の負債による生活困難や、支援員や専門員のアドバイス等を殆ど聞き入れない困難なケースについては、弁護士と連携しながら支援に当たるとともに、生活困窮者自立支援事業と連動しながら支援するケースもあります。また、判断能力の低下により、第三者による成年後見制度での支援が必要な方も見受けられることから、自主事業として成年後見に対する相談支援事業と法人成年後見受託事業にも取り組んでおり、地域福祉権利擁護事業からの移行相談が2件ありました。なお、社協の中心的な事業のひとつである相談業務については、「誰もが相談しやすい体制づくり」を目指し、総合相談窓口として地域生活支援センター「ふらっとホーム」（深川郵便局隣り）を拠点として実施しています。

自立相談支援センター（生活困窮者自立支援事業）

平成27年4月から新たに施行された「生活困窮者自立支援法」に基づき、市より受託した生活困窮者自立支援事業は、生活困窮状態にある方が自立し、社会参加及び困窮状態から早期に脱却できるよう本人の状態に応じた包括的かつ継続的な支援を行うため、必須事業である自立相談支援事業と任意事業である家計改善支援事業と就労準備支援事業を実施しました。訪問支援を中心に、幅広い相談体制による様々なケースに応じた寄り添い型の個別支援を展開しました。

令和元年度 生活困窮者自立支援事業 支援状況 【決算報告書10ページ：受託事業】

自立相談支援センター窓口利用者状況（相談内容※重複回答）

病気・健康・障害	住まい	収入・生活費	家賃・ローン	税金・公共料金 支払い・債務	仕事・就職	地域関係	家族関係・子 育て・介護	DV・虐待	引きこもり	食糧なし その他
7	8	31	10	21	12	1	6	1	4	10

年齢別

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計	*プラン策定者+直接支援継続者の支援人数 (世帯支援となるため、1世帯で複数の人数 の支援を行っているケースがあるため数字が 異なってくる)
4	7	7	7	8	5	6	44	

支援内容（重複回答）

電話・メール	訪問・同行支 援	来所・面談	所内会議	支援調整会議 (プラン策定)	支援調整会議 (評価)	他機関との 会議	他機関との電 話・照会・協議	その他
64	55	115	7	6	11	11	49	4

支援状況

	件数	事業名		件数	支所別	件数
生活困窮事業契約者 (本人同意によるプラン策定 者)	17	自立相談支援	生活困窮状態からの早期自立を支援	10	長門	6
				(新規)4件 (継続)6件	三隅支所	2
					日置支所	1
家計相談支援	6	主に家計再建に向けた支援・相談	(新規)4件 (継続)2件	長門	5	
				三隅支所	1	
				日置支所	0	
				油谷支所	0	
				油谷支所	0	
就労準備支援	1	就労に向けた準備としての基礎能力の形成 からの支援を計画的かつ一貫して支援	(新規)0件 (継続)1件	長門	0	
				三隅支所	1	
				日置支所	0	
				油谷支所	0	

	件数	事業名	件数	支所別	件数
未契約ではあるが支援継続者 (本人同意なし、プラン未策 定者)	13	未契約ではあるが支援継続者 本人同意には至っていないため、プランを策定 し、それに基づく支援を行ってはいないが、月に 複数回の訪問や支援(例/年金免除申請や各種助 成金申請の同行、施設見学の同行)を行う等継続 的に支援をおこなっているもの。	13	長門	8
			(新規)9件 (継続)4件	三隅支所	3
		日置支所		2	
		油谷支所		0	
		油谷支所		0	

	件数	事業名	件数	支所別	件数	
プラン策定者の終了件数	10	内 訳	自立相談支援事業	5	長門	2
				家計改善支援事業	三隅支所	2
					日置支所	0
就労準備支援事業	1	就労準備支援事業	1	長門	3	
				油谷支所	1	
				長門	1	

付随事業	件数		
フードバンク事業	2	フードバンク事業については、共同募金の歳末助け合い事業費を活用し、食糧品を対象者に給付しま した。自立支援ホーム事業については、生活困窮を理由に当面の住居が確保できない方とは別に、DVに よるシェルター(家族と一時隔離による保護)としての利用が、昨年に続き1件ありました。 これらの付随事業を生活困窮者自立支援事業と一体的に行うことで、対象者への幅広く且つ計画的な 支援が可能になっています。	
貸付事業	生活福祉資金貸付		0
	法外援護資金貸付		6
自立支援ホーム事業	1		
器具貸出事業	0		

・障害者総合支援法に係る事業 【決算報告書13ページ：地域支援事業】

地域活動支援センター事業

令和元年度は、在宅の障害者の皆さんが、いつでも安心して利用できる場所（居場所）、社会参加するための第一歩を踏み出す訓練をする場所として、「作業・生産・創作的活動の機会の提供」「相談支援事業（ひきこもり相談を含む）」「日常生活動作訓練等の生活支援事業（フリースペースの利用を含む）」「機能訓練、社会適応訓練」「地域交流事業」「健康チェック及び健康管理」を実施しました。また「啓発活動」として、ボランティアサポーターの受入れ、地域イベントへの参加、関係団体・関係機関へのパンフレット配布のほか、近隣自治会に「たけのこ村情報誌」を年4回発行しています。

①基礎的・機能強化事業

内 訳	対象者数	延べ対応件数	摘 要
基礎的事業	190	3,158	作業及び生産活動・創作的活動
機能強化事業	141	1,377	機能訓練・社会適応訓練
合計	331	4,535	

農作業体験として、御所原大神宮所有の畑（約1反3畝）を借り受け、畑作業を実施しました。収穫物として、モロッコいんげん、里芋、きゅうり、ピーマン、ミニトマト、ナス、大根、玉ねぎ、長ネギ、ブルーベリーかぼちゃ、さつまいも、じゃがいも等をAコープ長門店産直コーナーに出荷しました。また、就労への意欲を向上させる取り組みの一つとして実施している竹作業を通じてできた竹炭、竹チップ、竹パウダー、竹酢液を、せんざキッチンや元乃隅神社でほえっぴーグッズとともに販売をしています。また機能訓練として手先を動かす袋詰め作業や運動系プログラム、コミュニケーション訓練、社会適応訓練として歯磨きや髭剃り等の身だしなみ・買い物・調理・掃除等の実習や日帰りの小旅行等を実施、生活の活性化や創作意欲・学習意欲の向上を図るとともに、プログラムには「女子会」や「たけのこサロン」などを盛り込み、利用者増を図る取り組みも行いました。また、就労に向けた訓練の一環として利用者が生産活動に従事した場合にポイントを付与し、ポイントに応じて活動費を付与しています。

②障害者相談支援事業について

受理状況内訳	対象者数	延べ対応件数	摘 要
来 所	100	892	就労、アルバイト等、個人目標、健康、生活、利用、介護保険、今後、訪問調査、健康状態の確認、生活全般、困りごと、見学同行、情報提供、変更計画
電 話 等		610	
訪 問		83	
同 行		21	
そ の 他		157	

障害者の地域生活を支援するために、専門の相談員を配置し、各種相談に総合的に対応し、個々の障害者の幅広いニーズと様々な社会資源の結び付け調整を図り、障害者の相談支援を実施しました。

②-2 計画相談（重複なし）（障害者サービス計画作成） (単位：人)

受理状況内訳	対象者数	延べ対応件数	摘 要
来 所	41	34	利用計画、モニタリング、インフォーマルサービス紹介、訪問予定の変更、困りごと、サービス利用、変更について、利用計画、変更計画、生活状況の確認、見学同行、利用について
電 話 等		67	
訪 問		136	
同 行		15	
そ の 他		23	

障害者サービス計画作成については相談支援専門員を配置し、利用者及びご家族の希望を聞き取りながら、計画を作成して必要なサービスが必要な時に受けられるよう支援するとともに、必要に応じて他機関との連絡・調整を図ります。

③フリースペース (単位：人)

受理状況内訳	対象者数	延べ対応件数	摘 要
情報提供等	13	118	生活やお金に関する情報提供（年金など）
くつろぎの場の提供	13	92	体調に合わせて休憩室、和室を利用
合計	26	210	
稼働日数		48	
1日平均		4.4	

平成29年7月より深川郵便局横の民家にフリースペース事業を移設。本人及び家族からの相談に応じ、ひきこもり及びひきこもりがちな方への情報提供や来所相談を実施しました。外出の場、くつろぎの場、他者との交流の場として提供しています。

★児童福祉部門 【決算報告書10ページ：依山幼児園⇒受託事業、チャイルドシート貸出事業：共同募金配分事業】

年 度	児童関係の事業(抜粋)					
	依山幼児園 (児童数)	チャイルドシート貸出事業(単位：台)				
		長門(含らっこ)	三隅	日置	油谷	合計
平成17年度	18	83	151	-	23	257
平成25年度	15	208	44	36	37	325
平成26年度	14	229	40	41	38	348
平成27年度	13	252	42	45	44	383
平成28年度	9	215	34	26	38	313
平成29年度	9	229	40	32	47	348
平成30年度	10	192	35	35	56	318
令和元年度	8	165	44	25	49	283

依山幼児園や依山湯の家の運営を継続実施しています。依山幼児園については地域の中の一員として地元の行事に積極的に参加し、また、河川プールや温泉といった地元でのふれあいを大切にしています。依山に子供たちの笑い声や笑顔があふれています。平成31年度は当初園児8名・職員2名でスタートしましたが、令和2年度は園児5名・職員2名になりました。

チャイルドシート貸出事業については、貸出しが集中するゴールデンウィーク・盆・正月の帰省時に不足しないよう、全世代対応型を3台購入し台数を確保しました。

依山湯の家（児童養護施設）令和元年度 入所状況 【決算報告書5ページ】 (単位：人)

初日(在籍数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
	29	29	29	29	30	30	31	31
定員40名	12月	1月	2月	3月	入所児童数		退所児童数	
	33	33	34	34	6		4	

(平成31年4月1日現在)

学年別児童数	乳・幼児	小1～3	小4～6	中学校	高校	その他	うち県外	計
男	1	2	1	3	9	1	1	17
女	1	2	2	2	3	2	1	12
計	2	4	3	5	12	3	2	29

(その他事業) 令和元年度

	(子育て短期支援事業)	(グループ・ケア事業)	(一時保護)
のべ利用数	0名	実利用7名×1ヶ所(男子のみ)	延574日(実利用22名)

収支等

(単位：千円)

年度	事業活動収入	事業活動支出 (+退職共済掛金)	差 額	当期末資金残高	人件費積立金	修繕積立金	備品等購入積立金	施設整備積立金
平成25年度	201,262	203,009	▲ 1,747	21,226	7,305	21,554	14,670	13,320
平成26年度	184,548	183,749	799	22,025	7,305	21,554	14,670	17,320
平成27年度	191,992	160,626	31,366	52,309	7,306	21,554	14,670	17,320
平成28年度	188,404	171,804	16,600	36,666	22,305	21,554	14,670	32,320
平成29年度	189,951	177,549	12,402	46,549	22,305	21,554	14,670	32,320
平成30年度	188,823	167,986	20,837	36,995	37,306	21,554	14,670	47,320
令和元年度	193,514	169,211	24,303	35,933	37,306	21,554	14,670	71,320

本年度は、40人定員でスタートしましたが、児童相談所からの一時保護委託が多かったものの措置入所が少なかったため、次年度は暫定定員39名となりました。また4：1の配置基準を満たすことができない職員不足の中で業務を行ったため各職員にはかなりの負担をかけましたが、財政的には余裕を持って運営ができました。

人材の確保については、就職相談会への参加や大学等への訪問を図ったことにより、4名の人材を確保することができ、退職は1名にとどまった結果、次年度はかなり余裕をもって業務にあたるできるようになりました。

施設の小規模化については、本年度進展がなかったのですが、市の所有である施設前のグラウンドの一部を借りて一棟2ユニットの小規模施設を新たに建てる検討を開始しました。グループケアの開始にはさらに児童指導員及び保育士が必要になりますので募集を継続していきます。

従来から取り組んでいます長門地域及び萩地域の要請に応じた子育て短期支援事業は、利用者がありませんでした。里親支援業務や児童に関する相談業務に積極的に取り組み、長門市社会福祉法人地域公益活動推進協議会の一員として、介護フェスタin長門の運営に携わるなど地域福祉の推進に努めました。

◆事業総括（決算報告概要）

本会の社会福祉事業は、決算報告書2ページに記載のとおり、①社会福祉推進事業、②俵山湯の家、③介護保険事業、④障害者総合支援事業の4つの拠点区分で構成されており、令和元年度の本会事業全体の収支状況を表す事業活動資金収支差額は5,188千円のプラスとなっています。しかしながら、②俵山湯の家の事業活動収支資金差額のプラス分が25,814千円を占めており、②以外の収支差額では▲20,627千円となります。令和2年3月の第1次補正予算の収支差額では▲40,287千円を見込んでおり、当時の収支見込みよりはいく分改善されているものの、究めて厳しい決算数値となっています。

次に、②俵山湯の家を除く、拠点区分ごとの事業について検証します。まず、①社会福祉推進事業は、決算報告書裏面の法人運営事業から受託事業までの8つのサービ、ス区分で構成されていますが、事業活動資金収支差額は▲37,765千円となっています。マイナス額の大部分を占めるのが法人運営事業で、30,006千円のマイナスです。本事業には、介護保険事業とたけのこ運営事業を除くすべての事務職員の人件費が含まれています。そのうちの14名については市の補助対象となっていますが、補助率が70%（令和2年度は80%に増額）に留まっており、補助残の人件費、社協単独雇用職員人件費、事業費及び事務費を介護保険事業の繰入金15,165千円、財政調整基金14,800千円で補填し、収支の均衡を取りました。令和2年度予算でも、残りの財政調整基金全額20,000千円全額を取り崩すこととしており、長年積み立ててきた剰余財源が底をつくこととなります。

③の介護保険事業については7事業、14事業所の運営を行っています。令和元年度は、通所・訪問・ケアマネ・地域包括の各事業は順調に推移しましたが、ひだまり長門の収支が▲12,612千円、やすらぎの里が▲5,781千円となり、介護保険事業全体の収益を低下させる要因となっています。本会の財政運営は、従前から、法人運営事業の赤字分を介護保険事業の黒字分で補填することで収支のバランスを取ってきており、介護報酬の減額改定と相まった介護保険事業収益の悪化が、本会の財政状況をより厳しいものとしています。

最後に、④障害者総合拠点事業については、障害者の介護サービス事業とたけのこ村の2つの事業を実施しています。そのうち、事業費の大部分を占めるたけのこ村の運営事業では、計画相談費や福祉関連グッズの売り上げなどの収入が増額し、人件費についても職員の休業により人件費が圧縮されたため、善意銀行事業からの繰り入れが平成30年度の5,379千円から500千円と、大幅に改善しています。令和2年度には一般相談支援事業を受託することとしており、安定的な運営に努めて参ります。

本市でも、新型コロナウイルスの拡大により観光業や飲食業を中心としたサービス関連業種の一部休業や売り上げ減、従業員の失業等が深刻となって来ており、本市の経済活動全体への悪化が危惧されているところです。幸いにも、本会の事業自体が直接新型コロナウイルスの影響を受けることはあまりありませんが、今後の長期にわたる社会・経済状況の混迷（令和恐慌？）が、本会の財政状況や職員の処遇等に大きく影響する事態も想定しながら、今後とも様々な事業を展開してまいります。